

あくまでも自分史として

「岳陽」と共に

第 68 号

発行日 2026.01. 30
編集・発行 井上講四／堂本彰夫
※連絡先 〒901-2225 沖縄県宜野湾市 大謝名 3-13-24 教育協働研究所 ~岳陽舎~ (井上講四宅)
Tel:098-963-9282
E-mail: gakuyou17@outlook.jp

○突然ではあるが、実は、それは、必然でもあった!!

年始早々、衆議院の解散、それに伴う政党の激変等、思いも寄らぬ?事態が、加えて進行している!そんなことをしている場合かと、内心では思う(憂う?)が、それが現実なのだから、その意味では仕方がない!個人としては、それらを冷静に見つめながら、肅々と日々を生きていくだけであるが、だが、一方では、これまでとは違った位相(構図)が生じ始めていることは事実であり、我々(日本国民)は、その自覚と覚悟を有さなければならぬ!そうも、思う次第である!それは、ある意味では必然であり、突然無理矢理惹き起こされたように映るが、決してそうではないとも言えるというのである(本当は、以前から、その兆候が現れていた?)!!

ここでは、それについては、詳しくは述べないが、いみじくも今回の政変(急変)は、起こるべくして起こったとも言えるということであり、これまでのような曖昧さ(優柔不断?あるいは傍観/無関心?)が許されなくなったということでもある!!もちろん、その曖昧さ(優柔不断?あるいは傍観/無関心?)が、例えば外交においては、むしろ意味(実益?)があり、実際の平和(安穩?)にとつては必要であったというような受け止め方(逆説?)もあるであろうが、少なくとも現時点においては(将来、状況が、また変わるかもしれないが?)、そのようにシフトしなければいけないということである!とにかく、その大きな契機が、27日に公示された衆議院選挙であることは言うまでもない!これまでのような、結局は、何も変わらない(変えられない?)ものとなるのか?それとも、これからの時代を牽引していけるようなものとなるのか?まさに、そこが、最大のポイントであるわけである!

○古希から始めた自分史と思索の軌跡!

ところで、今般、この『岳陽』と共に」の合作編集版(創刊号/第60号)を作った。何せ、膨大なボリュームとなるので、果たしてA I (Software) がどのような反応(ネーミングや音声解説)を示すのか、興味津々(不安?)であったが、流石機械?、一応対応してくれた(理由は分からないが、何故か一晩中かかったが?)!ただし、相変わらずの誤読(意味不明の発音?)や誇張(曲解?)があり、少々閉口した(ある意味、仕方がないとは言え?)。

だが、そうは言っても、彼ら? (笑) の反応は、そこに書かれている種々雑多な記事(文章)の全体総括?(の1つ)であり、全体としては、それらしく受け止められるものというところはある!一つの解釈として、素直に喜んでおこう(今のところ、それしかないのだから?笑。ちなみに、そのネーミング(これにはまったく異存はない?)は、『岳陽』と共に:古希から始めた自分史と思索の軌跡」(一部修正/ただし、音声解説は、また違うタイトル!)としてくれている!なお、その後、気晴らしに、その「動画解説」もお願ひしてみた!結果は、自分でも面映ゆいらしいの出来栄であったが(二つの自分史を持つ男:自己の回顧録」というタイトル)、流石にこれは、HP上には上げられない!!でも、何故か新鮮であった(密かに、自らを鼓舞したい時に、ニヤニヤしながら視聴することにしよう!)!というところで、こうした時間も享受したが、繰り返すようだが、一方では、ここしばらくは、国内外の動きから目を離すことは出来ない!!そんな時代状況での、自らの「今」、そして「生」なのである!

○「中道(中庸?)」は、真摯な生き様の結果であって欲しい?

翻って、上記二つの記事には、かなりのギャップ?もあるが、とにかくそれが、私にとつては「今」なのであり、「そこで生きていく」ということである!そんな中、今般の、突然の解散・総選挙の報には、もちろん驚いたが、さらに驚いたのは、それに伴う、ある党とある党の、言わば奇想天外?の合流話であること(言うまでもない!「中道改革」というのが、その旗印ということである)だが(その後、「中道改革連合」という名称が、その党名となった!)、実は、私は、その「中道(中庸?)」の意味(意義)について、かねてから、私的に?考え続けてきたこともあり、備忘の意味を含めて、それについて、ここで少し論じておきたいと思ふのである(ただし、それは、今回の政局とは直接関係はない!!)!

しかるに、ここでは、その「中道(中庸?)」の意味(意義)についての総括?ということ、私なりに、そのことを書き留めておきたいということであるが、その前に、よく似た言葉である「中道」と「中庸」についてふれておきたい!言わば、前者が「政治的スタンス」、後者が「生きる上での行動スタンス?」となっているということであるが、いずれにしても、たとえそれが大多数であっても(理論的にはそうなる?)、それ(ら)が、最初からあるもの(どっちつかず)ではなく、「真摯な生き様(言動)の結果」であって欲しいということである!言い換えれば、考え抜いた結果としての「中道(中庸?)」(大多数?)に、意味(意義)があるということである(決して優柔不断とか、常に誰かに任せるといようなことではないということである!)!ただし、ここでは、両者の違い自体には深入りはしない(究極的には、その違いはない?)!もちろん、それは、両極どちらの言い分にも耳を傾ける必要があるということであるが、そこに、自らの判断や価値観が不要だということではないということである!要は、最初から、どっちの側(両極)にもつかないということではなく、その時々々の情勢全体の動きを真摯に俯瞰しながら、「今、何が必要(そして実現可能)か」を熟慮し、行動していく、言わば、その時々々に、「是々非々」で生きていくということが求められるということである!それがなければ、単なる無関心、迎合/無責任となる!! (井上)

○「〇〇ファースト」は、ある意味原初的な原理!!

○これが、逆説的には、今選挙の一番の成果かも?

〈特別コーナー〉堂本彰夫の古代史旅枕688) ○続いて、「日向(三代)神話」を探る?—その2—

さて、こちらの方もまた、表面の記事と連動するようにして、今回の政変劇でも党・政治家のしたたかさ(醜さ?)には、本当に驚かされた前面に出されている「〇〇ファースト」ということについて(いみじくも、それが焙り出されてしまった?逆説的ではあるが、そのことが、今回の選挙の一番の成果かもしれない?苦笑)「た

だし、これは、私(堂本)が、これまでと違って、ユーチユーブ視聴等も含めて、かなり真剣にその光景を見つめているからかもしれない?!したがって、それは、ある意味通常の状態(姿)であり、さほど特筆されるべきものではないのかもしれない! 党利党略、我が身可愛さ、等々、その形容には事欠かないが、本当に、これで、我が国が抱えている喫緊の諸課題(危機?)が解決(解消)できるのかどうか?否、こうした人達の至な言動によって、国のあり方うか?否、こうした人達の至な言動によって、国のあり方

だが、そこには、多少複雑な史実が横たわっている!それが、「ホスセリ」と「ホオリ(ホデリ)」の関係(海幸彦と山幸彦の相剋?)である!結局は、弟の「ホスセリ」(山幸彦)が、兄の「ホオリ(ホデリ)」(海幸彦)を従属させる話であるが(ただし、元々の原話は、いわゆる「南方系」の兄弟逸話をおそくこれを、捏造したものである)が推測される)、それが、天皇家と軍人関係(二人は、天孫「ニギノミコト」の子、しかも、ホオリ(ホデリ)が「長子」とされている!)に投影されているわけである!

問題は、何故、そこに、「軍人族」が登場しているのか、そして、何故ホオリ(ホデリ)が長子とされているのかであるが、もし、それが、かの「日下部氏」を投影させているものであるとしたら、ある意味では(否、相当に)、そのモチーフは、現実味を帯びていることになる!何故なら、以前にも述べたとするが、同氏は、高良山周辺の九州倭国及び丹波(丹波)地域

と云うのも、個人であるが、集団社会であろうが、まや方向性が決められてしまうのか?様々あるが、もちろん「自分(達)」がファーストであることは、ある意味、それを選ぶのは、個々の国民であるので、最終的な責任はそちらにあるのだが(論理的には)、とにかく、今回を捨ててまで、他者(他国)に貢献するなどということは、生命体あるいは社会集団としてはあり得ない!まさに、その感も、大いにある!改めて、どうなるのか?

《短歌に託して》今回は、特別です!!

大和主権の構成氏族だったということを示しているということである!!

そこで、改めて、もし、その三人の子が、まさに天孫「ニギノミコト」の子であるとすれば、そこに示されている寓話は、その後の皇統譜の史実を、何らかの形で語り伝えていることになる!ということであるが、具体的には、彼らが、いつ、どこで、どのように出会い、その皇統譜を創り上げたのかということである!!とは言え、ここでの類推は、記紀神話全体のそれと同じであるが、その時々の史実を、一つの連続した物語として表したもののなか?それとも、実際の史実ではないが、自らの皇統譜作成のために創り上げた創作物語を、実際の史実に投影させながら、再編集したものかの類推(判断)は、まだまだ結論づけられない!とは言ってもない(徐々にならぬ感とはなっているが!!)(つづく) (堂本)

然と言えは当然なのである!だが、明らかのように、それが狂舞乱発されると、あるいは無理矢理一方的に宣言されると、「そこだけが良ければいい!他者(他国)がどうなろうと知ったことではない!自分達の力と責任でやれ!」というようなメッセージともなる(あたかも、どこかの国の大統領のように?)!そこが、問題なのである!

・古希から始めた 自分史と思索の軌跡!
まったくその通りである! 流石AI?

・「中道(中庸?)」は、単なる迎合ではいけない!
真摯な生き様の 結果であれ!

ただし、もちろんそこには、何らかの事情(思惑?)があることは言うまでもない!このままいくと、「自分達が危ない?その生存に支障が生じる?」というようなことであるが、忘れてはならないのは、ファーストだけでは、何も解決できないということである!野球に譬えれば(多少軽薄ではあるが)、他のポジションがあつてこそ、試合に臨めるのである!そこに英知が必要である所以である!

・〇〇ファースト 言えば言うほど陳腐?
大切なのは、どうすればそれが活きるのかでは?

《編集後記》今回は、時局に関わる話がほとんどだったが、隠棲生活?に浸かるわけにもいかない(笑?)、私達なりにコミットした次第である!ただし、楽しい、そして有意義な時間も、一方でそれなりに計画しているのも事実である! (井上/堂本)

・今選挙の一番の成果? 焙り出された
政党・政治家のしたたかさ(醜さ?)!!

・今選挙の一番の成果? 焙り出された
政党・政治家のしたたかさ(醜さ?)!!

・今選挙の一番の成果? 焙り出された
政党・政治家のしたたかさ(醜さ?)!!

・今選挙の一番の成果? 焙り出された
政党・政治家のしたたかさ(醜さ?)!!